

『ゴルフとは、自らを自らで励ますこと。』



バリューゴルフ
VALUE GOLF
www.valuegolf.co.jp

花咲く若者たち

テニスの4大大会第1戦、全豪オープン決勝で、大坂なおみ選手(21)がペトラ・クビトバ選手(28)を7-6、5-7、6-4で降し、日本選手初の全豪優勝を果たしたことは記憶に新しい。4大会2連勝。世界ランキングで、アジア勢初のシングルス1位となった。東京五輪が開催される2020年にはゴルフデンスラム(1年間で全4大会と五輪で優勝)に挑戦する。この異例の快挙に、日本国内だけでなく、世界中が注目している。本当に楽しみである。

大坂なおみ選手を見ていると、タイガー・ウッズ選手がゴルフ界に彗星のごとく現れたときのことを思い出す。タイガー・ウッズ選手が大学を中退し、20歳でプロ入りすると、翌年には最年少の21歳3ヵ月で、2位に圧倒的な差をつけマスターズ・トーナメントで初優勝した。この優勝を機にゴルフ界だけでなく、スポーツ界のヒーローとなった。大坂選手も今後、スター選手として、世界中で愛される存在になるのではないかと期待している。

最近、一流スター選手の条件として、3つ挙げられるのではないかと思う。1つ目は、早ければ中学生、高校生、いわゆるジュニアのレベルからその才能を認められ、実績をあげていること。2つ目は、世界レベルの国際試合で評価が高く、実績を上げていること。3つ目はそのアスリートのマネージメントの体制がしっかりしていること。ご存知の通り、タイガー・ウッズ選手には常に父であるアール・ウッズの存在があったし、大坂選手には一年超前からロシアのサーシャ・バインコーチがついている。

スポーツの世界だけではなく、将棋の世界でもスターは同様で、高校生の藤井聡太七段は幼少の頃から将棋教室でその頭角を現し、中学3年生では、もう既に有名なプロ棋士と対戦し、勝利をおさめている。

この若手選手の台頭という現象は、日本だけでなく世界的な現象で、インターネットによる情報の豊富さや、食事や栄養面での充実、さらにコーチなどのマネージメントスタッフのグローバルな交流など、今後ともスポーツやコンテンツ市場においては、台頭する若手はどんどん若年化していくのである。

地球のあちらこちらにいる無数の10代の若者たちが、今にも花を咲かせようとしているのである。



戸張 捷 Sho Tobar

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業(現SRIスポーツ)に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデュース、コンサルティングなども手掛けている。